

神戸大学大学院国際文化学研究科
令和7年度（2025年度）博士課程前期課程入学試験 試験問題

専門科目

科目名	ページ
日本学	1-2
アジア・太平洋文化論	3-4
ヨーロッパ・アメリカ文化論	5-6
文化人類学	7-8
越境文化論	9-10
国際関係・比較政治論	11-12
モダニティ論	13-14
先端社会論	15-16
芸術文化論	17-18
言語コミュニケーション	19-20
感性コミュニケーション	21-22
情報コミュニケーション	23-24
外国語教育システム論	25-27
外国語教育コンテンツ論	28-29

注意事項

著作権に対する配慮のため問題文を省略している場合があります。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：地域文化系

コース：日本学

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

- 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
- 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
- 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っていても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
- 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
- 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
- 試験開始後30分間は退室できません。
- 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
- 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
- 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

地域文化系領域日本学コース

(注)問題用紙1枚、解答用紙2枚、下書き用紙1枚

問題I,IIの解答は、それぞれ指定された解答用紙に、日本語または英語で記入すること

問題I

自分の研究分野において代表的な研究書を1冊あるいは複数冊あげて、そこで用いられている方法論について論じなさい。

問題II

以下のキーワードから複数を選択したうえで、テーマを自由に設定して論じなさい。その際、それらのキーワードを有機的に関連づけること。なお、冒頭にテーマとその設定理由について簡潔に説明し、また本文中でそれぞれキーワードを初めて使用した箇所には下線を引くこと。

AI(Artificial Intelligence) インタビュー 監視カメラ ご当地キャラ 産業遺産
人権 聖地巡礼 デジタルアーカイブ 伝統 ナショナリズム 文化財 歴史認識

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：地域文化系

コース：アジア・太平洋文化論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

- 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
- 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
- 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っていても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
- 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
- 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
- 試験開始後30分間は退室できません。
- 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
- 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
- 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

地域文化系領域アジア・太平洋文化論コース

(注)問題用紙3枚、解答用紙2枚、下書き用紙1枚

問題の解答は、指定された解答用紙に、日本語または英語で記入すること

問題：次の文章を読んで、あとの問1～3に答えなさい。

(問題文省略)

【出典】武井彩佳『歴史修正主義——ヒトラー贊美、ホロコースト否定論から法規制まで』
中公新書、2021年、9-15ページ（一部改変あり）。

問1：下線部(1)のように、本文では「事実」と「真実」という言葉が異なる意味で用いられている。それぞれ、どのような意味で用いられているのか、説明しなさい。

問2：筆者は本文中で、学術的な歴史の書き直しと、「歴史修正主義」とを区別している。それらはどのように異なるのか、簡潔に説明しなさい。

問3：問2で定義した学術的な歴史の書き直しと「歴史修正主義」との相違について、あなたが関心のあるアジア太平洋の国・地域の例を用いながら具体的に論じなさい。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：地域文化系

コース：ヨーロッパ・アメリカ文化論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

- 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
- 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
- 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っていても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
- 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
- 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
- 試験開始後30分間は退室できません。
- 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
- 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
- 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

地域文化系領域ヨーロッパ・アメリカ文化論コース

(注)問題用紙1枚、解答用紙1枚、下書き用紙1枚

問題の解答は、指定された解答用紙に、

日本語または英語で記入すること

問題

近代以降のヨーロッパもしくは南北アメリカの社会に大きな変化をもたらした文化交流や文化衝突の事例を一つ挙げ、具体的に論じなさい。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：異文化コミュニケーション系

コース：文化人類学

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

- 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
- 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
- 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っていても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
- 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
- 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
- 試験開始後30分間は退室できません。
- 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
- 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
- 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

異文化コミュニケーション系領域文化人類学コース

(注)問題用紙1枚、解答用紙2枚、下書き用紙1枚

問題I、IIの解答は、それぞれ指定された解答用紙に、

日本語または英語で記入すること

問題I

以下の(1)~(6)について、簡潔に説明しなさい。なお、(1)~(4)については、文化人類学においてどのような議論が展開してきたのか、(5)、(6)については、文化人類学の学史的流れを踏まえつつ、それぞれの文化人類学者の研究がどのような特徴を持つものなのか、説明すること。

- (1)アニミズム(animism)
- (2)贈与(gift)
- (3)ネーション(nation)
- (4)分節リニージ体系(segmentary lineage system)
- (5)フランツ・ボアズ(Franz Boas)
- (6)ティム・インゴルド(Tim Ingold)

問題II

現代世界において紛争、対立、排除、分断などの動きが世界各地で顕在化している。このような問題を文化人類学はどのように扱い、分析することができるのか。具体的な事例を挙げながら、論じなさい。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：異文化コミュニケーション系

コース：越境文化論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

- 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
- 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
- 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っていても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
- 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
- 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
- 試験開始後30分間は退室できません。
- 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
- 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
- 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和7年度（2025年度）神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

異文化コミュニケーション系領域越境文化論コース

（注）問題用紙1枚、解答用紙2枚、下書き用紙1枚

問題の解答は、指定された解答用紙に、日本語または英語で記入すること

[問題]

文化が様々な境界を超える際には、双方向的な交流や変容が生じます。このような現象を研究することについて、事例をあげて論じなさい。なお、論じる際に以下の語句のうちから1つを選んで用いること。なお、いずれかの語句を初めて使用した箇所には下線を引くこと。

移住／ツーリズム／科学技術

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：異文化コミュニケーション系

コース：国際関係・比較政治論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

- 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
- 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
- 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っていても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
- 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
- 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
- 試験開始後30分間は退室できません。
- 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
- 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
- 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

異文化コミュニケーション系領域国際関係・比較政治論コース

(注)問題用紙1枚、解答用紙2枚、下書き用紙1枚

問題I、IIの解答は、それぞれ指定された解答用紙に、

日本語または英語で記入すること

問題I 議会と官僚制の関係について、その役割の違いに注目しながら、具体的な国の事例を挙げて論じなさい。

問題II 現在の国際秩序について、国際関係理論の主要な3つの学派(リアリズム、リベラリズム、構成主義)のいずれか1つの理論にもとづいて、具体的な事例を挙げながら説明しなさい。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：現代文化システム系

コース：モダニティ論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

- 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
- 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
- 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っていても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
- 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
- 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
- 試験開始後30分間は退室できません。
- 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
- 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
- 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

現代文化システム系モダニティ論コース

(注) 問題用紙1枚、解答用紙2枚、下書き用紙1枚

問題の解答は、指定された解答用紙に、日本語または英語で記入すること

問題 近現代思想における「規範」の概念について、具体例を挙げながら論じなさい。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：現代文化システム系

コース：先端社会論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

- 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
- 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
- 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っていても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
- 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
- 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
- 試験開始後30分間は退室できません。
- 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
- 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
- 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

現代文化システム系先端社会論コース

(注)問題用紙1枚、解答用紙1枚、下書き用紙1枚

問題の解答は、指定された解答用紙に、日本語または英語で記し、1枚に収めること

問題 下記A群から2つ以上、B群から1つ以上の語句を用いて現代社会の具体的な問題点について論じなさい。その際選んだ語句を「」(カギカッコ)で囲むこと。

A群から選んだ語句については、文中に1行程度でその語句の説明を書き加えなさい。

A群 Gender Based Violence 家父長制 妊娠中絶の権利
SOGIESC 子どもの権利 選択的夫婦別氏制度 デニズン
国境開放論 生活史 再帰性 アンダークラス
アナキズム ポストヒューマニズム ニューマテリアリズム

B群 旧優生保護法 同性カップル難民認定 『虎に翼』
共同親権 生涯未婚率 公営住宅 日本会議
国民連合(RN)
マフサ・アミニ(Mahsa Amini)
ダナ・ハラウェイ(Donna Haraway)
デイヴィッド・グレーバー(David Graeber)

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：現代文化システム系

コース：芸術文化論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

- 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
- 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
- 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っていても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
- 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
- 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
- 試験開始後30分間は退室できません。
- 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
- 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
- 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

現代文化システム系芸術文化論コース

(注)問題用紙 2枚、解答用紙 2枚、下書き用紙 1枚

問題 I,II の解答は、それぞれ指定された解答用紙に、日本語または英語で記入すること

問題 I 以下の文章を読んで、あとの問1、問2に答えなさい。

(問題文省略)

*出典:ドミニク・マカイヴァー・ロペスほか『なぜ美を気にかけるのか——感性的生活からの哲学入門』森功次訳、勁草書房、2023年、81-83頁(一部改変)

問1 下線部のように筆者が主張するのはなぜか、本文の内容に即して10行程度でまとめなさい。

問2 下線部の筆者の主張について、本文の内容をふまえたうえで、あなた自身の考えるところを15行程度で述べなさい。

問題 II 私たちの私的あるいは公的生活の中でのコミュニケーションにおける芸術の意味ないし意義について、具体例を挙げながら論じなさい。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：言語情報コミュニケーション系

コース：言語コミュニケーション

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

- 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
- 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
- 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っていても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
- 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
- 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
- 試験開始後30分間は退室できません。
- 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
- 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
- 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科
博士課程前期課程入学試験
専門科目 試験問題

言語情報コミュニケーション系言語コミュニケーションコース

(注) 問題用紙 2 枚、解答用紙 2 枚、下書き用紙 1 枚

問題の解答は、指定された解答用紙に、日本語または英語で記入すること

問題 次の文章を読み、あとの問 1、問 2 に答えなさい。

(問題文省略)

出典: 平野卿子「「石たち」「椅子たち」——日本語の複数形は増えている」『ニュース ウィーク

日本版』2021年7月27日(https://www.newsweekjapan.jp/stories/culture/2021/07/post-96780_1.php)より一部改変。

問1 日本語以外の言語における複数形と、著者が例として挙げた日本語の複数形とを対照させて、あなたの専門分野の知見を活かして、類似点や相違点について述べなさい。

問2 無生物名詞に「たち」がついた表現は、以前は日本語に存在しなかったが、最近よく見かけるようになったと著者は述べている。このように新たな表現が使われるようになる事象は、あなたの専門分野においてどのように捉えることができるか、論じなさい。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：言語情報コミュニケーション系

コース：感性コミュニケーション

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

- 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
- 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
- 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っていても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
- 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
- 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
- 試験開始後30分間は退室できません。
- 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
- 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
- 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科
博士課程前期課程入学試験
専門科目 試験問題
言語情報コミュニケーション系感性コミュニケーションコース

(注) 問題用紙 2 枚、解答用紙 2 枚、下書き用紙 1 枚

問題の解答は、それぞれ指定された解答用紙に日本語または英語で記入すること

問題：以下の文章を読んで、との問 1、問 2 に答えなさい

(問題文省略)

出典：Raviv, L., Lupyan, G., & Green, S. C. (2022). How variability shapes learning and generalization. *Trends in Cognitive Sciences*, 26(6), 462-483.
(pp.462-463 より一部改変)

問 1 下線部①の示す内容について文中の他の例を含めて説明せよ。

問 2 下線部②に関連する言語学あるいは心理学に関する独自の研究計画を考え、具体的に述べよ。研究計画には、研究の目的、仮説、研究対象、比較条件、予測される結果などを含むこと。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：言語情報コミュニケーション系

コース：情報コミュニケーション

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

- 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
- 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
- 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っていても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
- 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
- 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
- 試験開始後30分間は退室できません。
- 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
- 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
- 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科
博士課程前期課程入学試験
専門科目 試験問題

言語情報コミュニケーション系情報コミュニケーションコース

(注)問題用紙1枚、解答用紙2枚、下書き用紙1枚
問題の解答は、指定された解答用紙に、日本語または英語で記入すること

問題 神戸大学には一万人以上の学生、千人以上の教職員が在籍しており、かつて在学・在職していた人まで含めれば、同じ大学という繋がりは膨大な数に上るが、実際に関わることのできる相手はその中でもごく一部に限られている。神戸大学の関係で人と人とが出会うことを支援する「神戸大学マッチングアプリ」を新たに設計・開発すると想定して、問1~4に答えなさい。解答には図・表を用いてもよい。

問1 人と人の出会いを支援するアプリとしては恋愛目的での出会いに特化したマッチングアプリが知られている。それに対して、「神戸大学マッチングアプリ」ではどのような出会いを支援することがふさわしいか、具体的なマッチングの目的を1つ提案しなさい。

問2 問1で挙げたマッチングを支援するアプリを開発するにあたって、必要となるデータの種類と収集方法、利用者への提示方法、マッチング相手を絞り込む方法について説明しなさい。相手を絞り込む方法については、利用者が自ら取捨選択することを効率化する方法、プログラムによって絞り込む方法の両面を検討すること。

問3 恋愛目的のマッチングアプリでは、デート方法を決めるために直接メッセージのやりとりなどをすると、「神戸大学マッチングアプリ」においては大学の特性を活かした様々な出会いを考えることができる。問1で挙げたマッチング目的について、適切だと考えられる出会い方を1つ挙げ、その実現方法について、必要な情報・プログラム・大学の協力や設備を踏まえながら説明しなさい。

問4 大学が主催するビジネスプランコンテストなどにおいて「大学マッチングアプリ」に分類しうる提案は少なくないが、そういった提案が実を結んだ事例はほとんどなく、マッチングアプリといえば恋愛対象を探すものというイメージは変わらないままである。この状況を批判的に検討し、「大学マッチングアプリ」を実用化するために重要だと考えられる点を論じなさい。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：外国語教育系

コース：外国語教育システム論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語での解答を義務づけていない設問については英語による解答を認める。

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

- 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
- 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具（※筆箱等から出すこと）、時計（辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。）、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー（袋または箱から中身だけ取り出したもの）のみです。
- 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っていても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
- また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
- 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
- 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出してください。
- 試験開始後30分間は退室できません。
- 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
- 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
- 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

外国語教育系外国語教育システム論コース

(注) 問題用紙 2 枚、解答用紙 2 枚、下書き用紙 1 枚

問題 I、II の解答は、それぞれ指定された解答用紙に、日本語または英語で記入すること

問題 I 「外国語が上達する」というのは具体的にどういう状態を指すのか、あなたの考えを論述しなさい。

問題 II 次の(1)~(7)の設問の中から 2 つ選び、答えなさい。なお、解答にあたっては選択した設問の番号を解答用紙の()の中に明記すること。解答の順序は問わない。

- (1) 語族とは何か、具体例を 1 つ挙げて論じなさい。
- (2) フランス詩における「抒情主体 (sujet lyrique)」の性質を、その特徴がよく表れているような詩句を引用しつつ、説明しなさい。
- (3) 外国語の学習において、目標言語の単語を正確に発音できることや文や文章を適切なリズム・イントネーションで発話できるようになることの意義について、あなたの考えを論述しなさい。
- (4) 外国語教育において、グループワークが果たす役割について述べなさい。
- (5) 「言語のリズム」とは何か、2 つ以上の言語を比較して説明しなさい。
- (6) 言語運用における「複雑性 (complexity)」、「正確性 (accuracy)」、「流暢性 (fluency)」とはどのようなものか、また、それぞれの指標の解釈にはどのような課題があるか、具体例を挙げて説明しなさい。

- (7) 外国語を指導する際に、文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえて、両者を効果的に関連づけて指導すべきであるという考えがある。その意義と課題としてどのようなものがあるか、また、どのような言語活動が例として考えられるかについて状況を明確にした上で説明しなさい。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：外国語教育系

コース：外国語教育コンテンツ論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語での解答を義務づけていない設問については英語による解答を認める。

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

- 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
- 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具（※筆箱等から出すこと）、時計（辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。）、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー（袋または箱から中身だけ取り出したもの）のみです。
- 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っていても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
- 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
- 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出してください。
- 試験開始後30分間は退室できません。
- 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
- 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
- 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和7年度(2025年度)神戸大学大学院国際文化学研究科
博士課程前期課程入学試験
専門科目 試験問題

外国語教育系外国語教育コンテンツ論コース

(注)問題用紙1枚、解答用紙2枚、下書き用紙1枚

問題I,IIの解答は、それぞれ指定された解答用紙に記入すること

問題I

近年、外国語教育においても、DEI、すなわち、Diversity(多様性)・Equity(公正性)・Inclusion(包摂性)を重視する必要性が指摘されています。外国語の授業にDEIを取り入れる上で、(a)具体的にどのような試みが可能か、(b)それがどのような意義を持つのか、(c)実施にあたってどのような課題がありどのような点に注意すべきか、の3点について、過去の主要な第二言語習得理論や関連研究等を紹介しながら、あなたの意見を述べなさい。なお、論述にあたっては、解答用紙にある立論構成に従うこと。【日本語または英語で解答すること／Write in either English or Japanese.】

問題II

実社会におけるコミュニケーション能力の育成を重視する立場から、自動詞(verb transitive)と他動詞(verb intransitive)の機能の違いや、その使い分けを指導する60分間の授業計画案を作成しなさい。学習者のレベルは初級とする。はじめに、対象とする外国語の種別(日本語または英語のいずれかを選ぶ)、当該授業計画案の目的、具体的な対象者、前提とする教授理論や言語習得理論を明記した後、解答用紙の記載枠に従い、授業計画案を記入しなさい。【日本語で解答すること】